

陸上運動部部便り

2005年6月号

国立四大戦

目次

1 監督の言葉	1
2 主将の言葉	1
3 女子主将の言葉	1
4 試合経過	2
5 試合結果	7
6 2005年度部内5傑 2005.5.21 現在	10
7 主務より	11

1 監督の言葉

四大戦 監督 八田 秀雄

国立四大戦は6月19日上柚木競技場で行われました。例年よりも早い開催ですが、七大的選手を決める上ではよいタイミングでした。一方で関東インカレ後の鍛錬期で、また蒸し暑くなり、各校とも記録的にはもう一つでした。

今回は関東インカレからどれだけ立ち直ってくるかがポイントですが、まずまずでした。記録的には、米田が追い風1.7mで100m10.78。走るたびにベストの尾崎が110mHで15.32。伊勢田が400mHで56.92。短距離では、満足するまではいきませんが、いい結果は出てきています。中長距離は全種目1位を取って欲しかったところが、新井の1500mや石原の3000mSCは好走するも、もう少しでした。七大では得点源となるはずの跳躍は、風に恵まれないこともありましたが、幅、三段、全く元気なく、今後が案じられます。唯一棒の1年大谷4m00を跳んだのが明るい材料でした。投擲は庄司が円盤で少し自己新、合田も徐々に感じを戻してきています。

総合順位は95点で学芸大に続いて2位。徐々によくなっていますから、さらに七大大まで6週間のレベルアップを期待しています。

女子はこの大会はレベルが高くて総合点では苦戦しますが、向田が1500mで2位になったのを始め、塩入が400m、400mHで点を取りました。また小原、本間も健闘し、総合4位とはいっても今年も男子以上に七大大へ向けての手応えが感じられました。

2 主将の言葉

主将 米田武史

今回の四大戦は、七大大戦前の最後の対校戦ということで、七大大戦を意識した戦いになりました。結果は2位、3位と、決して芳しい結果ではないといえるでしょう。しかしながら、一年生の尾崎をはじめ七大大戦でも通用する自己ベストを出してきている選手も多く、七大大戦に向けて明るい材料が徐々に出てきているだろうとも思われます。まだ怪我から回復しきれていない者がいくらかありますが、皆で七大大戦での優勝を目指して頑張っていこうと思っています。今年の七大大戦は九州・博多ですが、ぜひとも足をお運びいただき、応援いただければ幸いです。どうぞ、よろしくお願いいたします。

3 女子主将の言葉

女子主将 向田恵

今年の四大戦は雨が降ることもなく、6月としては絶好の天候の下行われました。先月の国公立戦では総合2位という結果を残しよいスタートを切ったのですが、この大会では女子は3点制ということもありなかなか点数を取ることがで

きず、総合4位に終わりました。個々の選手の記録を見ても自己ベストあるいは大学ベストを出した選手はおらず、少々残念な結果となりました。この結果を深刻に受け止め、七大戦までの1ヶ月間さらに集中して練習に取り組んでいきたいと思います。

4 試合経過

トラック

10:35 女子4×100mR 決勝

4レーンに東京大学の出場。1走小原(3年)はアウトレーンを走る学芸には離されるが、まずまずの走りです。2走塩入(5年)につなぐ。塩入は全カレに照準を合わせる大会として参加、午後の400mHも視野に入れてスピードを抑えた走りです。2走をこなすが、インレーンの選手に抜かれてしまう。3走本間(2年)は跳躍が本職だけに加速力がなく健闘するも差を広げられてしまう。4走向田(3年)も長距離選手のため、じわじわと距離を広げられ結局54"08の4位だった。

10:40 男子4×100mR 決勝

4レーンに東京大学の出場。1走瀧山(3年)は勢いのある走りです。インレーンの選手との差を広げる好走だったが2走藤本(2年)とのバトンパスがうまくいかず、藤本は減速してゾーンギリギリでバトンをもらう。しかしそこからすばらしい伸びを見せ2番手で3走磯辺(3年)につなぐ。磯辺はインレーンの群大に抜かれて4走米田(4年)につなぐが米田は力強い走りです。再びこれを抜き返して42"73、学芸に次ぐ2位だった。

10:20 男子3000mSC 決勝

岡田(3年)、石原(2年)の出場。序盤、集団は互いに牽制し合い、やや縦長になりながらレースは展開。集団中、石原は前から2番手、岡田は後方につけ、1000mの通過は3'11"。残り3周となる直前で石原は口火を切ってペースを上

げ、先頭に出ると、そのまま2番手以降の選手をぐんぐん引き離して9'42"72でゴール。石原は1週間前に風邪をこじらせたため、ベストは出なかったものの勝負に徹したレース運びを見せ見事に優勝を飾った。一方、同じく試合直前まで風邪に見舞われていた岡田は、その影響が抜け切れず、集団がばらけ始めてもなかなかペースを上げられず、結局10'07"89の5位であった。

11:15 男子400m 決勝

6レーンに沖田(2年)、7レーンに田中(4年)の出場。沖田ははじめてのコーナーの加速は悪くはなく、スムーズに加速できたが、内側の1、3、4レーンの選手がそれを上回るスピードで加速してきてバックストレート中盤あたりで喰われてしまう。続くコーナーとホームストレートでは粘るが、前半での差がほとんどそのまま最終的な差となってしまう。4位51"20でゴール。田中はスタートからバックストレートまでは沖田とほぼイーブンのスピードで走るが、バックストレート後半で1、3、4レーンに喰われ、さらにコーナーの入り口あたりで一つ内の沖田にも抜かれる。続くコーナーからバックストレートでも伸び悩み、6位52"61でゴール。

11:25 女子400m 決勝

東学大のオープン1名を含む6選手、4レーンに塩入(5年)の出場。塩入はスタートからいまま一つスピードにのることができない。インレーン、アウトレーンの両隣が学芸の選手だったが、最初からピッチが早く、これに大きく出遅れた感じであった。しかしスピードが落ちることはなく、200m付近から伸び始めて群大の選手と全体の4位争いをしながらホームストレートに突入、最後はこれに競り勝って59"28の4位でゴールした。

11:00 男子1500m 決勝

新井(3年)、月崎(2年)の出場。ランキングトップの新井だが、最近の記録会で埼大の桶田に先着されており油断

はできない。スタートは2人とも後方に位置し、様子を窺う。400mを65"で通過した後も慎重に後方につけていたが、800mあたりで新井が先頭に出てレースを引っ張る。1000mを2'44で通過した後も更にスピードを上げ、ラストは他を寄せ付けないスパート力を見せつけてそのままゴール。4'03"19で優勝した。月崎はレースのスピードアップについてゆけずに4'10"48の7位であった。新井は七大戦を見据えてラスト勝負を挑むという、予定通りのレース運びで優勝し、自信につながった。月崎も次回に弾みをつけたい所であったが、悔しい結果となった。

11:15 女子 1500m 決勝

向田(3年)の出場。5名で行われ、向田はスタート直後から最後尾につける。400mを76"で通過後、群大の選手が1人前へ出るも、800m付近で再び1つの集団になる。はじめ後方につけて自分のペースを守った向田は、集団の中で着々と順位を上げ、1000mを3'18で通過。ここで2番手に上がりスパートの機会を窺う。ラスト250mを過ぎた辺りで先頭に勝負を仕掛けるも、前の選手が粘りを見せ、順位は変わらないまま4'57"56の2位でゴール。惜しくも優勝は逃したが、しっかり5分を切り、七大戦に向けて期待の持てる内容であった。

12:00 男子 110mH 決勝

3レーンに梅沢(3年)、6レーンに尾崎(1年)の出場。先月の国公立での勢いをそのまま持ち込みたい梅沢だが、スタートの待ち時間の長さが影響したのか、出遅れてしまう。しかしこの後たてなおし、持ち前のスムーズなハードリングで前を行く3人を懸命に追いかける。だが、トップスピードまでの加速に手間取り、うまく差をつめられずに15"70の4位でゴール。失敗しながらもセカンドベストを出し、実力アップを感じさせた。フライイングも無くスタートのタイミングがばっちり合っ

たという尾崎は苦手の1台目までの加速がうまくいき、中盤まで先頭を走る。しかし普段よりスピードが出ていたためハードリングに乱れが生じ、それがインターバルの走りにも影響を与え、やや失速してしまう。この際に学芸の選手に抜かれ、終盤修正するも抜けず、15"32の2位、自己ベストであった。このとき風は+1.1mであった。

12:20 男子 100m 決勝

4レーンに米田(4年)、8レーンに瀧山(3年)の出場。米田は素晴らしいスタートで先頭に立ち、順調な加速をみせ中間疾走で追い風にも乗りそのまま危なげなく10"78の1位でゴール。フォームが乱れる事無く、終始落ち着いたレース運びで、力の差を見せつける勝利だった。瀧山も好スタートを切り、しっかりと加速していった。しかし、中間疾走で少々スピードに乗り切れずにゴール前の混戦を制することができず11"19の5位でゴール。このとき風は+1.7mであった。米田は手動による速報タイムが10"51で大会記録と自己ベストが期待されたが、残念であった。瀧山も自己ベストには届かなかったものの、3位とは0.08秒差と肉迫した。今後、益々の活躍が期待される。

12:40 女子 100m 決勝

2レーンに小原(3年)の出場。スタートの反応はうまくいったが、いまいち加速にキレがなく出遅れてしまった。全体的にフォームが小さくまとまってしまう、スピードをうまく上げることができず、その後追撃するも13"31の6位でゴール。このとき風は+1.0mであったタイム的に悪くはないものの、実力を完全に出し切ることができなかった。次戦での活躍を望む。

12:55 男子 400mH 決勝

2レーンに伊勢田(3年)、7レーンに坂田(3年)の出場。今回の大会で400mHは3回目の出場となる伊勢田はハードリングで苦勞しながらも前半から快調に走り、バックストレートで

前方の選手との差を徐々につめ、コーナーの各選手が並ぶ付近の地点で一気に前に出て、コーナー出口でトップに立った。そのまま最終ハードルを一位でクリアするが、それまでのハードリングの疲労から最後の直線でスピードを保ちきれずゴール手前でかわされ惜しくも2位でゴール。記録はハードリングの練習次第では関カレB標準である56"64まで充分手の届く、56"92であった。坂田は、前半からマイペースなレース展開。イーブンペースで大きな乱れもなく進み、最後の直線で前方の選手を追い上げるも一歩及ばず、7位でゴール。このとき、61"29であった。

13:05 女子 400mH 決勝

4レーンに塩入(5年)の出場。7月の初めにこの種目で全カレに出場する塩入は現時点での仕上がりを見る意味でも貴重な試合となった。序盤から飛ばす学芸の選手に続いてバックストレートの入り口でインレーン群大の選手に抜かれるが、焦ることなくハードリングを重視する安定した走りを見せる。ハードル間の歩数がタイムにつながってくる400mHにおいて中盤、後半もリズムのよい走りは乱れることなく、最後の直線で前半についた差を徐々につめていって3位でゴール。このとき、65秒35であった。

13:20 男子 800m 決勝

5レーンに村井(4年)、7レーンに庄司(4年)の出場。村井は先日の関東インカレ出場選手、庄司は昨年この試合で2位入賞しており、2人とも高得点が期待される。2人は揃ってスタートから飛び出し、庄司が先頭に、村井が2番手に立つ。そのままの位置で庄司はレースをリードし、400mを57"で通過。500mを過ぎた辺りで村井がペースを上げて先頭に並ぶが、庄司が盛り返し逃げ切りを計る。そのまま直線に入ると、村井が切味鋭いスパートを見せて先頭に立つ。そのままゴールかと思われたが、3番手を追走していた埼

玉大の選手が猛追を見せて庄司を抜き去り、ゴール前で僅かに村井もかわしてゴール。村井が1'57"58で2位、庄司が1'58"35で3位であった。勝てるレースただだけに、悔しい結果となった。

14:05 男子 200m 決勝

5レーンに米田(4年)、2レーンに滝山(3年)の出場。米田は100メートルと同様の鋭いスタートで最初から一歩抜け出す。カーブを抜け出て中盤にかけてスピードが落ちず、最後はやや競りながらも逃げ切って22"10秒の一位で不安を感じさせることなく、フィニッシュ。米田に続いて滝山もなかなかよいスタートを切ったが、加速しきれずカーブを曲がったあたりから先頭に遅れをとり始める。米田に続いて3選手がほぼ並び、更に後続も迫る中で最後はなんとか粘り抜いて、23"01という記録にまとめた。着順は5位。このとき風は-1.0mであった。

14:05 女子 200m 決勝

4レーンに塩入(5年)の出場。7月の初めにこの種目で全カレに出場する塩入は現時点での仕上がりを見る意味でも貴重な試合となった。序盤から飛ばす学芸の選手に続いてバックストレートの入り口でインレーン群大の選手に抜かれるが、焦ることなくハードリングを重視する安定した走りを見せる。ハードル間の歩数がタイムにつながってくる400mHにおいて中盤、後半もリズムのよい走りは乱れることなく、最後の直線で前半についた差を徐々につめていって3位でゴール。このとき、65"35であった。

14:55 男子 5000m 決勝

中原(4年)、片岡(3年)の出場。スタート直後、東学大の選手を先頭に、6人が一列に並ぶ。片岡は2番手、中原は3番手につける。1400m付近で中原が5番手まで順位を下げるが、その他特に大きな変動もなく、6人が一列のまま2000mを6'16"で通過。しかし、その直後、片岡が先頭に立ち、それにより集

団が崩れ始める。中原はペースの変化についていけず、2800m付近でついに集団から離れてしまう。さらに3000m過ぎ、東学大、埼大、群大の3名が先頭に出てペースを上げるが、片岡はついて行けず、離されてしまう。片岡は東学大、群大の2名と4位争いをするが、スパートで競り負けてしまい、16'06"87の6位でゴール。中原は始終集団の後方につけていた群大の選手にも追い抜かれ、16'47"84の7位でゴール。二人とも普段の力をまったく発揮できず七大に向けて不安の残る結果となった。

15:10 女子3000m 決勝

清水(3年)の出場。スタート直後に学芸大の選手が飛び出し、集団がすぐに崩れる。清水は徐々に後方に下がり、400mを91"で通過。800mを過ぎると、集団の最後尾で群大の選手と並走となる。前半がややハイペースであったせいか徐々にペースが落ち、1600m付近から群大の選手にも離されてしまう。その後は1人のレースになったものの、フォームを崩さず自分のペースを維持。そのまま12'09"77の5位でフィニッシュした。目標にしていた12分を切る事はならなかった。

15:40 男子4×400mR 決勝

4レーンに1走今村(2年)-2走田中(4年)-3走小澤(2年)-4走沖田(2年)の走順で出場。今回のマイルリレーでは関カレ標準突破を目標に、全員が一丸となって戦う。1走の今村、スタートは好調にとばし、200m地点で早くも5レーンの学芸大に追いつく勢いを見せる。その後インレーンに追いつかれはしたが、そのままのペースを維持し2番目に2走田中へとバトンをつなぐ。セパレートからスタートする2走のレースは、100mを過ぎてオープンフラッグを通過したあたりで東大の順位は2位。田中は200m、300mと後続にやや詰められはしたが、同時に先頭との距離も縮めて、ラスト100mをペースを落とすことなく乗り切り、2

位をキープしたまま3走小澤にバトンパス。この時点でスタンドの盛り上がりも最高潮をむかえ、四大学とも応援合戦に熱が入る。応援も含めて、チーム一丸となった総力挙げての戦いだ。

バトンを受け取った3走小澤は、出だし好調な走りを見せる。しかし、200mを過ぎたあたりから、3位、4位の大学ともにペースをじわじわと上げてきて、250m地点で惜しくもかわされてしまう。その後は、必死に食らいつき3位との差を最小限にとどめたまま、アンカー沖田へとバトンをつなぐ。スタンドでは、なんとか勝って欲しいと精一杯の応援を続ける。4走沖田はスタートから積極的にとばし上位をうかがおうとする。100m、200mじりじり追い詰め、250m地点では手を伸ばせば追いつきそうな距離まで迫るが、300mからスパートをかけた上位に惜しくも水をあげられてしまった。結果は3分22秒88で4位であったが、目標であった関カレ標準を突破しひとまず胸をなでおろした。来年はぜひとも、雪辱を晴らしてもらいたい。

フィールド

10:00 男子棒高跳 決勝

大谷(1年)の出場。今季ベストは3m90であるが、助走を16歩に伸ばしたので3m80から試技を開始。3m80は1回目で難なくクリア。続く4m00の1回目は足が合わず失敗するが、2回目ではしっかり合わせクリア。続く4m20の1回目は体が流れてしまい失敗。そこでポールを1段階硬いものに変えたが、2回目は腰が落ちた助走になったため助走が合わずファール。3回目は上で中途半端な倒立姿勢になってしまい失敗。結果、4m00の2位で試技を終えた。

10:00 男子走幅跳 決勝

相川(3年)、武安(1年)の出場。徐々に跳躍を修正して、後半の跳躍で記録を伸ばすという持ち味をもつ相川は、それを十分に活かすことができなかつ

た。2本目の跳躍では6m28を跳んだが、助走後半でテンポアップする際のリズムの乱れが目立った。その影響もあり、後の試技でも踏み切りで腰を乗せることができず、最後まで記録を伸ばすことができなかった。相川は走り安定しており、四大戦の跳躍を分析してスピードを殺さない踏切を身につけることができれば、ベストを大きく更新できるだろう。武安は結局1本目の6m38から記録を伸ばせなかった。助走で腰を乗せられず、かつ踏切が踵から入りすぎブレーキをかけてしまっているため、空中で体勢が乱れるなど課題が多く残された。受験を隔て跳躍練習の絶対量が明らかに少ないこともあるので、基本に立ち戻ってもう一度跳躍を立て直してほしい。結果、武安が6m38で5位、相川が6m28で7位であった。

10:00 女子走幅跳 決勝

小原(3年)、本間(2年)の出場。小原は1跳目に4m44を跳ぶ。助走のスピードは出ていたものの、走幅跳の練習があまりできていなかったこともあり、その後記録を伸ばせず5位であった。本間はなかなか調子が出ず、5跳目に跳んだ4m44で6位に終わった。

10:00 女子砲丸投 決勝

本間(2年)の出場。走幅跳と時間が重なっていたため、2投しかできなかったが、1投目に投げた7m36で3位となった。

11:30 男子砲丸投 決勝

合田(3年)、小林(2年)の出場。1投目から小林は10m15を投げて、まずまずのスタートを切る。合田も続く2投目に10m37を投げ、今季初の試合にしては好調な滑り出しで、順位を上げる。そのまま3投目を折り返して後半に突入するものの、二人とも思うような投げができずに、不安定な投擲を続ける。結局合田は最後までフォームを安定させることができずに、そのままの記録で6位に終わる。小林は6投目

に修正することができ、10m68を投げて3位となった。

12:30 男子走高跳 決勝

田中(5年)、木村(2年)の出場。田中は久々の走高跳とあってか、序盤なかなかリズムがつかめず、1m75を1度、1m80を2度失敗してしまう。しかし高さがあがってくると徐々に感覚を取り戻し、1m85を1跳目、1m90を2跳目でクリア。そのまま勢いに乗るかと思われたが、1m95では助走にも踏切にも精彩を欠きクリアならず。記録1m90に終わった。木村は今シーズン初戦。故障明けとあってか最初の高さの1m50からの挑戦。1m50、1m55をともに1跳目でクリアし最低得点を確保する。しかし徐々に足の痛みが増し、1m60に2度挑んだ時点で競技を終了した。

13:00 男子やり投 決勝

石井(4年)、関原(2年)の出場。石井の1投目はファールであったが、2、3投目には順調に記録を伸ばし3投目が終わった時点で3位、関原は3投目まで本来の力が出せずに2投目には自らファールにするシーンも見受けられた。3投目が終わった時点では4位であった。しかし、2人とも、4投目以降に記録を伸ばし、石井が今期ベストの44m99で4位、関原も47m44まで記録を伸ばし、3位と言う結果であった。

14:00 男子三段跳 決勝

佐野(2年)の出場。蒸し暑い昼下がり、体力を消耗する前に早い段階の試技で記録を残しておきたいところ。しかし、佐野は1跳目に13m43を記録しただけで、その後ファールを繰り返す。結局残りの試技はファールとパスで、6位で競技終了。関カレ入賞者としては不服な結果そのものであり、七大戦にむけてしっかり調子を上げていくことが望まれる。

14:30 男子円盤投決勝

合田(3年)、庄司(2年)の出場。時おり気まぐれな風が吹くものの、曇天か

つ高気温という恵まれたコンディションのもとでの試合になった。合田は、今シーズン初めにしてしまった、疲労による怪我の回復具合を気にしながらの投擲であった。前半は、2投目こそファールだったが、1投目(33m65)、3投目(33m18)とやや低調な記録ながら無難に試合を運び、4番手で前半3投を終えた。順位を上げたい後半戦では、5投目(34m18)、6投目(34m44)と今期ベストには1m以上及ばないものの、34m台の記録を連発、学芸大の2番手を捉えて3位(34m44)で競技を終えた。庄司は、直前の練習やOB戦で好記録を出しており、試合での自己記録更新が目標であった。公式練習から円盤が30mラインを超え、好調をアピールすると、2投目には30m71を投げて自己記録(30m32)を39cm更新した。しかも、1投目(29m67)、3投目(29m78)ともに29m台後半の好記録を残して、5番手で前半3投を終えた。そのため、後半戦では更に記録を伸ばすことが期待されたが、4投目(26m23)、6投目(26m81)など低調な記録が目立ってしまった。その上、5投目まで記録を残していなかった群大の2番手に、6投目で逆転されてしまい、6位(30m71)で競技を終えた。この種目、東大は5点を獲得した。

5 試合結果

第30回国立4大学対校陸上競技大会
第12回国立4大学対校女子陸上競技大会

於 上柚木公園陸上競技場 (H17.6.19)

男子 100m 決勝 (+1.7)			
1	米田武史	東京大	10"78
2	高橋修平	東学大	11"04
3	高橋豊	東学大	11"11
4	星洋輔	埼玉大	11"14

5	瀧山健	東京大	11"19
6	佐瀬景祐	群馬大	11"33

男子 200m 決勝 (-1.0)			
1	米田武史	東京大	22"10
2	川添広	東学大	22"50
3	高橋豊	東学大	22"19
4	岩田知剛	群馬大	22"90
5	瀧山健	東京大	23"01
6	礪江俊浩	埼玉大	23"17

男子 400m 決勝			
1	川添広	東学大	49"89
2	佐藤恒一	群馬大	50"16
3	磯崎拓郎	埼玉大	50"62
4	沖田朋憲	東京大	51"20
5	内山一憲	群馬大	52"52
6	田中佑貴	東京大	52"61

男子 800m 決勝			
1	今井篤	埼玉大	1'57"57
2	村井昂志	東京大	1'57"58
3	庄司一郎	東京大	1'58"35
4	桶田武	埼玉大	2'02"52
5	矢島悟志	群馬大	2'02"79
6	関谷卓也	東学大	2'06"39

男子 1500m 決勝			
1	新井邦生	東京大	4'03"19
2	桶田武	埼玉大	4'04"00
3	廣澤務	東学大	4'04"34
4	高橋優一	群馬大	4'06"45
5	小杉健	群馬大	4'06"78
6	斎藤祐一	東学大	4'09"31
7	月崎竜童	東京大	4'10"48

男子 5000m 決勝			
1	茂木岳人	群馬大	15'45"31
2	小林孝太郎	埼玉大	15'49"14
3	木村豊	東学大	15'51"82
4	奥山和彦	東学大	15'57"28
5	高木義春	群馬大	16'06"83
6	片岡哲郎	東京大	16'06"87

7 中原健二 東京大 16'47"84

男子 110mH 決勝 (+1.1)

1 藤原泰裕 東学大 15"11
 2 尾崎翔 東京大 15"32
 3 橘京佑 東学大 15"53
 4 梅沢啓 東京大 15"70
 5 福田雄介 群馬大 16"11
 6 加納淳起 埼玉大 16"58

男子 400mH 決勝

1 松本博 東学大 56"46
 2 伊勢田明弘 56"92
 3 藤原将博 東学大 57"65
 4 門脇祐太 東学大 58"05
 5 鳩山和弘 群馬大 58"74
 6 加納淳起 埼玉大 61"07
 7 坂田裕輔 東京大 61"29

男子 3000mSC 決勝

1 石原宏尚 東京大 9'42"72
 2 太田健佑 東学大 9'48"86
 3 栗原龍太 東学大 9'54"84
 4 黒坂拓也 埼玉大 10'00"65
 5 岡田良平 東京大 10'07"89
 6 横澤智行 群馬大 10'15"18

男子 4 × 100mR 決勝

1 東学大 42"28
 2 東京大 42"73
 (瀧山-藤本-磯部-米田)
 3 埼玉大 42"75
 4 群馬大 43"22

男子 4 × 400mR 決勝

1 東学大 3'20"87
 2 埼玉大 3'21"33
 3 群馬大 3'22"04
 4 東京大 3'22"88
 (今村-田中佑-小澤-沖田)

男子走幅跳決勝

1 藤原泰裕 東学大 6m99(± 0.0)

2 渡辺真樹 群馬大 6m94(+1.8)
 3 林純平 埼玉大 6m48(+1.1)
 4 菅原祐己 群馬大 6m45(+1.0)
 5 武安光太郎 東京大 6m38(± 0.0)
 6 相川啓祐 東京大 6m28(+1.7)

男子三段跳決勝

1 渡辺真樹 群馬大 14m96(+1.2)
 2 藤原泰裕 東学大 14m67(+1.2)
 3 林純平 埼玉大 13m69(+1.0)
 4 菅原祐己 群馬大 13m64(+0.8)
 5 遠藤哲哉 埼玉大 13m50(-0.5)
 6 佐野太郎 東京大 13m43(+0.1)
 - 倉員智暎 東京大 DNS

男子走高跳決勝

1 遠藤哲哉 埼玉大 1m95
 2 田中啓 東京大 1m90
 3 稲垣圭吾 群馬大 1m65
 3 門脇祐太 東学大 1m65
 5 木村剛 東京大 1m55

男子棒高跳決勝

1 日向弘承 東学大 4m40
 2 大谷真人 東京大 4m00
 3 河野隆一郎 埼玉大 3m60

男子砲丸投決勝

1 相京優也 群馬大 14m41
 2 加藤久晴 東学大 13m27
 3 小林宗隆 東京大 10m68
 4 井上直紀 東学大 10m60
 5 桜井太郎 群馬大 10m51
 6 合田隆彦 東京大 10m37

男子円盤投決勝

1 加藤久晴 東学大 38m78
 2 相京優也 群馬大 37m83
 3 合田隆彦 東京大 34m44
 4 一浦友也 東学大 34m18
 5 桜井太郎 群馬大 32m54
 6 庄司宇 東京大 30m71

男子やり投決勝

1	井上直紀	東学大	56m39
2	桜井太郎	群馬大	55m86
3	関原考之	東京大	47m44
4	石井仁也	東京大	44m99
5	渡邊昭太	群馬大	42m04
6	橘京佑	東学大	41m27

男子トラック順位

1	東学大	75
2	東京大	62
3	群馬大	40
4	埼玉大	38

男子フィールド順位

1	東学大	44.5
2	群馬大	42.5
3	東京大	33
4	埼玉大	20

男子総合順位

1	東学大	119.5
2	東京大	95
3	群馬大	82.5
4	埼玉大	58

女子100m決勝(+1.0)

1	藤井美幸	群馬大	12"71
2	川上春奈	東学大	12"75
3	望月美希	埼玉大	12"93
6	小原明恵	東京大	13"31

女子100m決勝(+2.0)

1	藤井美幸	群馬大	26"42
2	望月美希	埼玉大	26"60
3	北島絢子	東学大	27"09
4	小原明恵	東京大	27"51

女子400m決勝

1	西尾千沙	東学大	56"63
2	田村育子	群馬大	58"53
3	小口陽子	東学大	58"76
4	塩入敦子	東京大	59"28

女子1500m決勝

1	前野希代子	東学大	4'56"25
2	向田恵	東京大	4'57"56
3	牧原幸子	東学大	5'03"13

女子3000m決勝

1	富山美佳	東学大	10'11"24
2	西村明真	東学大	10'16"98
3	土橋智美	群馬大	11'17"72
5	清水里紗	東京大	12'09"77

女子400mH決勝

1	田村育子	群馬大	63"96
2	土田礼子	東学大	64"09
3	塩入敦子	東京大	64"35

女子4×100mR決勝

1	東学大	49"21
2	群馬大	52"07
3	埼玉大	52"16
4	東京大	54"08

(小原-塩入-本間-向田)

女子走幅跳決勝

1	鷓生川早紀	東学大	5m40(+1.6)
2	遠藤累	埼玉大	5m27((± 0.0))
3	久保彬子	東学大	5m06(+0.1)
5	小原明恵	東京大	4m44(± 0.0)
6	本間諒子	東京大	4m44(+1.3)

女子トラック順位

1	東学大	27
2	群馬大	13
3	埼玉大	6
4	東京大	3

女子フィールド順位

1	東学大	10
2	群馬大	7
3	埼玉大	6
4	東京大	1

女子総合順位	
1	東学大 37
2	埼玉大 20
3	群馬大 12
4	東京大 4

6 2005年度部内5傑 2005.6.19現在

男子 100m

1	米田 武史 (4年)	10"78(+1.7)	6.19
2	瀧山 健 (3年)	11"09(+1.8)	4.30
3	藤本 元太 (2年)	11"24(+1.0)	3.21
4	田中 啓太 (2年)	11"44(+1.7)	5.21
5	相川 啓佑 (3年)	11"62(-1.6)	4.17

男子 200m

1	米田 武史 (4年)	22"10(-1.0)	6.19
2	瀧山 健 (3年)	22"5(+0.3)	4.3
3	今村 岳 (2年)	22"91(+1.0)	5.21
4	沖田 朋憲 (2年)	23"47(+0.9)	4.23

男子 400m

1	沖田 朋憲 (2年)	50"58	4.9
2	田中 佑貴 (4年)	51"41	5.21
3	今村 岳 (2年)	52"25	4.23
4	小澤 聡 (2年)	52"29	5.21

男子 800m

1	村井 昂志 (4年)	1'55"8	4.29
2	新井 邦生 (3年)	1'57"23	6.19
3	庄司 一郎 (4年)	1'57"6	4.29
4	割沢 高行 (3年)	1'59"94	4.9
5	黒澤 徹也 (3年)	2'00"77	6.19

男子 1500m

1	新井 邦生 (3年)	3'59"59	5.8
2	月崎 竜童 (2年)	4'07"34	5.21
3	石原 宏尚 (2年)	4'08"56	5.21
4	斎藤 俊 (2年)	4'09"1	6.4
4	黒澤 徹也 (3年)	4'11"37	6.19

男子 5000m

1	石原 宏尚 (2年)	15'20"	
2	中原 健二 (4年)	15'23"8	4.23
3	片岡 哲郎 (3年)	15'44"67	5.21
4	千島 悠司 (3年)	15'45"6	4.2
5	村田 拓哉 (4年)	15'47"5	4.2

男子 110mH

1	尾崎 翔 (1年)	15"32(+1.1)	6.19
3	梅沢 啓 (3年)	15"53(± 0.0)	5.21
2	田中 啓 (5年)	15"59(+1.1)	6.19

男子 400mH

1	伊勢田 明弘 (3年)	56"92	6.19
2	坂田 裕輔 (3年)	61"04	5.21
3	門脇 啓太 (1年)	61"98	6.19
4	平林 学 (2年)	62"51	5.21

男子 3000mSC

1	石原 宏尚 (2年)	9'37"50	4.30
2	岡田 良平 (3年)	9'50"0	4.29
3	月崎 竜童 (2年)	10'05"4	4.9
4	山崎 大 (3年)	10'31"08	4.17

男子 10000mW

1	深尾 宙彦 (3年)	52'26"54	5.8
2	菅野 雄大 (2年)	52'31"99	5.1

男子 走幅跳

1	竹内 昌男 (3年)	6m93	4.30
2	相川 啓佑 (3年)	6m89	5.21
3	尾崎 翔 (1年)	6m59	6.19
4	武安 光太郎 (1年)	6m50	5.21

男子 三段跳

1	佐野 太郎 (3年)	14m31	4.9
2	倉員 智瑛 (2年)	13m87	4.9
3	林 盛 (3年)	12m21	5.21

男子 走高跳

1	持永 新 (3年)	1m70	4.9
2	木村 剛 (2年)	1m55	6.19

男子 棒高跳

1	大谷 真人 (1年)	4m00	6.19
2	持永 新 (3年)	3m70	4.23

男子 砲丸投

1	小林 宗隆 (2年)	10m68	6.19
2	持永 新 (3年)	10m37	4.29
2	合田 隆彦 (3年)	10m37	6.19
4	庄司 宇 (2年)	10m17	4.2
5	関原 孝之 (2年)	9m99	4.2

男子 円盤投

- | | | | |
|---|------------|-------|------|
| 1 | 合田 隆彦 (3年) | 35m72 | 5.8 |
| 2 | 庄司 宇 (2年) | 30m71 | 6.19 |
| 3 | 関原 孝之 (2年) | 30m46 | 4.3 |
| 4 | 持永 新 (3年) | 28m82 | 4.9 |
| 5 | 小林 宗隆 (2年) | 26m68 | 5.21 |

男子 やり投

- | | | | |
|---|------------|-------|------|
| 1 | 関原 孝之 (2年) | 48m10 | 5.21 |
| 2 | 石井 仁也 (4年) | 44m99 | 6.19 |

女子 100m

- | | | | |
|---|-------------|--------------|------|
| 1 | 小原 明恵 (3年) | 13"30(+1.4) | 5.21 |
| 2 | 堀越 彩香 (M2年) | 13"76(± 0.0) | 5.21 |

女子 200m

- | | | | |
|---|-------------|-------------|------|
| 1 | 小原 明恵 (3年) | 27"51(+2.0) | 6.19 |
| 2 | 堀越 彩香 (M2年) | 28"27(+0.7) | 6.19 |

女子 400m

- | | | | |
|---|------------|-------|------|
| 1 | 塩入 敦子 (5年) | 59"28 | 6.19 |
|---|------------|-------|------|

女子 800m

- | | | | |
|---|--------------|---------|------|
| 1 | 目黒 亜由子 (M1年) | 2'16"14 | 4.30 |
| 2 | 向田 恵 (3年) | 2'26"14 | 5.21 |

女子 1500m

- | | | | |
|---|-----------|---------|------|
| 1 | 向田 恵 (3年) | 4'57"56 | 6.19 |
|---|-----------|---------|------|

女子 3000m

- | | | | |
|---|------------|----------|------|
| 1 | 向田 恵 (3年) | 10'46"91 | 5.21 |
| 2 | 清水 理紗 (3年) | 12'09"77 | 6.19 |

女子 400mH

- | | | | |
|---|------------|-------|------|
| 1 | 塩入 敦子 (5年) | 64"35 | 6.19 |
|---|------------|-------|------|

女子 走幅跳

- | | | | |
|---|------------|------|------|
| 1 | 本間 諒子 (2年) | 4m72 | 5.21 |
| 2 | 小原 明恵 (3年) | 4m44 | 6.19 |

女子 棒高跳

- | | | | |
|---|------------|------|-----|
| 1 | 本間 諒子 (2年) | 3m00 | 5.8 |
|---|------------|------|-----|

7 主務より

文責：中原健二